

平成 28 年 4 月 1 4 日

公益財団法人富山第一銀行奨学財団  
理事長 金岡純二 殿

助成研究成果概要報告書

教育機関名 : 富山大学	助成金額 : 450 千円	
研究代表者 : 宮城 信	所属 : 人間発達科学部 人間環境システム学科	職位 : 准教授
研究題目 : 富山県の児童作文の文の構造の解析と作文指導法の基礎的研究		

【研究概要】

本研究では、これまでなかった大規模な児童が書いた作文資料を計量的に分析することによって、作文における実態データに基づく客観的なデータと基準を提出した。国語教育学研究者である代表者と教科書調査官・コーパス言語学者である研究協力者が異なる立場から専門的な考察を行い、複眼的な視点から児童らの書く作文の実態と学齢の進行に伴う複雑化の過程を捉えることが出来た。さらに得られた結果に統計的な解析を行うことによって、データを一見しただけでは見出せない、潜在的傾向性にも言及した。

【成果要約】

成果要約

具体的な研究成果としては、一つ目に外部の専門業者による大規模な作文資料の解析を実施し、形態論情報（品詞名、活用形、基本形、読み等の情報）、文の構造の情報（主述や修飾被修飾のような文の係り受け構造）を付与した。おおよそのデータ量は、220 編（推定 10 万形態素）規模になった。二つ目は、構造解析がなされた当該資料を用いて、児童の書いた文章の語順や文の構造の複雑さ（文を主語・述語・修飾語などに分解し互いの関係性を示したモデルの構築）の解析を行った。さらに、大学生（成人）が書いた作文（100 編程度）と比較することによって、児童作文の特性を抽出した。

本研究で残された課題

時間と費用の制約もあり、得られたデータを現場の教員に提供するに留まり、三つ目の課題である、共同で作文指導実践を行う段階までは研究を進めることができなかった。本研究を通じて現場協力教員との協力関係を構築することが出来たので残された課題を継続的に推進していく。

(別添資料)

研究成果 発表状況	【雑誌論文, 学会発表, 図書, 新聞掲載, 研究に関連して作成した Web ページ, 産業財産権 (特許権等) の出願・取得状況について記入】  ・ 第 1 回作文支援プロジェクト全体会議 (東京, 日本女子体育大学, 2015/4/25) 宮城 信, 今田 水穂, 富士原 富士原 紀絵, 松崎 史周「『児童作文コーパス』の設計と活用」計と活用」 ・ 漢日対比言語学研究会 (中国, 上海, 2015/8/20) 宮城信 「コーパスを利用した作文分析について—児童・生徒見る認識のモダリティ表現」 ・ 共同作文指導シンポジウム「作文指導の現在—課題と実践へ提言」(富山, 高志会館, 2015/8/23) 今田水穂・宮城信 「データで見る作文能力の実態と発達」(日本語研究から提言①)		
経費の 執行状況	区分	執行額 (円)	備考
	物品購入	200,298 円	日本システムアプリケーションに解析を外注した。
	旅費請求	27,660 円	代表者が東京に打ち合わせに行った。
	謝金請求	221,400 円	学生にデータの確認作業を謝金業務でお願いした。
	文献複写費	642 円	
	合計	450,000 円	